

## 女性活躍推進に関するアンケート 第一次報告

女性の活躍推進が成長戦略の中核に位置付けられ、2020年に指導的地位の女性を30%に！という方針が打ち出されているが企業の担当者の間では性急な施策は逆効果であるという意見もある。

では当の女性たちはどう受け止めているのだろうか、またその周囲の男性たちの意識はどうだろうか。女性活躍推進の施策がそこで働くすべての人々にとってプラスになるものでなければ定着はしないであろうし、企業にとってのメリットもなければ積極的な取り組みは望めないであろう。

そこで、私たちは女性活躍推進についての実態と意識を把握するために、2014年2月17日～3月14日にわたってWebアンケートを実施したところ500人からの回答が得られた。結果概要は下記の通りである。この報告は第一次であり、今後さらに分析を進め、施策立案に役立つ報告をしていく予定である。

2014年4月14日

株式会社クオレ・シー・キューブ

### 女性活躍推進に関するアンケート 第一次報告

- 女性を積極的に活用する取り組みのある企業は**37%**、職域拡大を行っている企業は**24%**、管理職登用のための研修を実施している企業は**19%**に過ぎなかった。
- 女性登用の数値目標を取り入れている企業は**17%**。
- 制度上（給与や評価）、性差別が存在するとの回答が約**20～40%**みられた。
- 管理職や幹部社員への登用については、**59%**が女性の登用が少ないと回答していた。
- 「働きやすさ」にもっとも大きな影響力をもつ要因は、男女ともに「仕事の手ごたえ」、『モデルとなる先輩・上司の存在』があげられた。
- 『育児休暇3年』については肯定回答、否定回答が拮抗し、男性よりも女性の方が否定的な回答が多く、子供のいる女性では**否定的な回答が半数**にのぼった。
- 働きやすい職場要件の1、2位は男女ともに『産休・育休制度』、『育児にかかわるインフラの整備・充実化』。
- 働きやすい職場要件の3位には女性は『男女公平な評価』、男性や子供と同居の女性は『職場の労働時間・残業削減』をあげている。
- 子供と同居の女性の働きやすい職場要件の上位に『男性も家事・育児・介護へ参加する意識改革』があげられた。

アンケートの詳細は、クオレ・シー・キューブ ウェブサイトよりお申し込みいただけます。

<http://www.cuorec3.co.jp/women/index.html>